

北薩の輝き

良質な教育環境づくりを推進する北薩の教育

音読の必要性(朝読み・夕読みの励行を)

北薩教育事務所 所長 末満 一二三

最近少し気になっていることがある。それは、「朝読み・夕読み」の励行をあまり聞かなくなったことだ。私の小中学生時代は、担任の先生が「朝読み・夕読み」を徹底していた。それは、椋鳩十先生が県立図書館長時代に「母と子の20分間読書運動」を創設し、その考えが本県に根付いていたことも背景にあったと思う。

しかし、1970年代から「活字離れ」、「本離れ」という言葉が使われはじめ、1980年代になると、漫画、ファミコン等の影響を憂慮する声が出た。1990年代には問題行動等の低年齢化や道徳観の欠如等と読書離れが関連しているのではないかと指摘されてきた。

そのような中、文部科学省は、「読書活動は、子供が言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものである」として、読書を推進している。

今一度、読書することの大切さ、特に、音読の必要性について再認識する必要があるのではないだろうか。

一般的に、音読することの効果として、以下のようなことがあると言われている。

- 音読することで、文章全体が頭に入りやすくなり、記載内容の理解が促される。
- 音読することで、文章の語彙や言い回しを体得できる。語彙力の向上に役立つ。
- 声帯の筋肉が鍛えられ、張りのある元気な声が出るようになる。
- 声を出すことで、脳の前頭葉が鍛えられ、脳が活性化する。等々

この他にも、保護者が我が子の学習の様子を身近に感じることができ、家族間での朝夕の会話につながることも期待できる。

以上のようなことを考えると、教員一人一人が、「朝読み・夕読み」の大切さを積極的に呼びかけるべきではないか。椋鳩十先生が提唱した20分間読書と言いたいところだが、せめて朝・夕の10分程度の時間でもよい。毎日、声を出して読み続けてほしい。ランドセルから、教科書を取り出し、声を出して読むという習慣を子供に身に付けさせたい。国語の教科書を読むだけでなく、その他の教科書の内容も声に出して読んでほしい。教科書や本を毎日、朝夕声を発して読むことで、多くの語彙に触れ、文章全体の理解が促され、文章を読み取る力も身に付いてくる。

主体的・対話的で深い学び

〔出水市立大川内小学校〕

本校では、少人数・複式学習指導法の研究において、言語活動を充実させながら授業改善を行い、確かな学力の定着を図るために、次のようなことを中心に取り組んでいます。

ガイド育成と学習形態の工夫・改善



ガイド学習をする様子

ガイド学習では、「一人学び」の時間の確保と自分の考えを述べる場の充実に取り組んでいます。

自分の考えを書かせて発表させることで、教師は、一人一人の考えを確実に見届け、まとめにつなげることができています。

少人数・複式学級の特性を生かした学習指導を充実させ、一人一人の見届けを確実に行ったことで、確かな学力が身に付いてきています。

また、言語活動の充実を図りながら学習指導を工夫・改善し、学習環境を整えたことで、学んだことを活用し、適切に表現できる児童が増えてきています。

発達の段階に応じたNIE教育とICT機器を使った教育



ICT機器を活用して発表する様子

新聞の写真や記事、コラム等を教材として活用しながら、発達の段階に応じたNIE教育を行うことで、読解力が身に付いてきています。また、プロジェクター等のICT機器を積極的に活用することで、授業理解につなげています。

〈教育事務所から〉

大川内小学校は、ガイド・フォロー・教師が協働的に学習を進めるための具体的な工夫を行い、諸学力調査等において成果を挙げています。特認校等のよさを生かした特色ある教育活動が推進されています。

熱中症事故の防止について

◆未然防止 ～熱中症は予防が大切!!～

- ・屋外での帽子着用
- ・短時間で軽めの運動からはじめる
- ・適度な休養と、こまめな水分補給

◆熱中症を疑ったとき

- ①涼しい環境への避難
- ②脱衣と冷却
- ③水分・塩分の補給
- ④医療機関への連絡・搬送

◆医療機関が熱中症搬送時に知りたいこと

- ・様子がおかしくなるまでの状況
- ・不具合になった時の状況と最近の状況

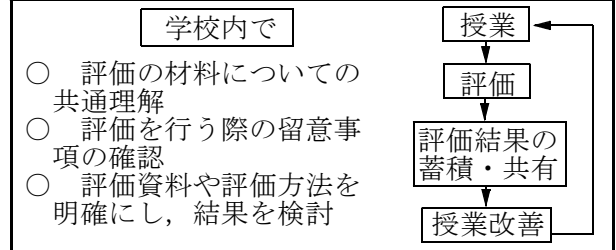
「考え、議論する道徳」の実現に向けて

■ **授業の実態** (平成31年度全国学力・学習状況調査児童生徒質問紙から)
質問事項「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいたと思いますか。」

小学校 50.4% (県比+2.5, 国比+8.3)
中学校 39.7% (県比+6.1, 国比+5.7)

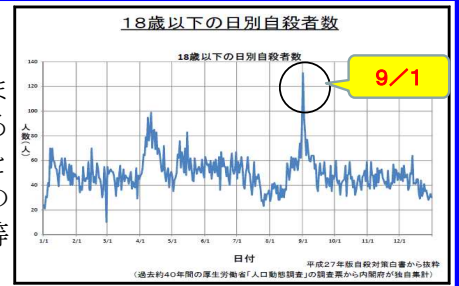
※ **考え、議論する授業の推進が見られます。**

■ **道徳科の評価**



「あなたは、一人じゃないんだよ。」

夏休み明けの9月1日に最も18歳以下の自殺者数が多くなっています。休み明けの直後は、児童生徒にとって生活環境等が大きく変わる契機になりやすく、大きなプレッシャーや精神的動揺が生じやすいと考えられています。学校や家庭、あるいは地域において、児童生徒の見守りの強化や、家庭訪問、児童生徒向に寄り添い、共感する相談等の対応に努めてください。



学びや絆を深めた、3泊4日の宿泊研修

北薩地区フレッシュ研修(宿泊研修)を、7月23日(火)～26日(金)に、薩摩川内市立少年自然の家で、地区内の初任者42人が参加して実施しました。2日目は、鹿児島県立薩摩中央高等学校で農業体験も実施しました。

「校種の違う初任者同士で多くの時間を過ごしたことで、児童生徒のために同じ思いで頑張っていることが分かり、この先の財産となった。」「児童生徒の立場になって、指導者としての姿や指示の仕方、態度をどうすべきか考え、自分の1学期の姿を振り返る機会となった。」など、様々な講義や活動を通して、学びや絆を深める機会となりました。



北薩・南薩地区 ジュニア・リーダー及び高校生クラブ交流大会

7月27日(土)・28日(日)に、薩摩川内市立少年自然の家で、交流大会を開催しました。北薩地区から38人、南薩地区から24人の参加があり、「Step 新たなスタート～創る自分たちの物語～」を大会テーマに、2日間充実した活動を行いました。

特に、全国子ども会ジュニア・リーダー研究集会に参加した高校生の報告から、鹿児島県の課題やこれからの活動を考えることができ、参加者一人一人が、次につながるステップアップの機会となりました。北薩地区の中・高校生15人の実行委員を中心に、すばらしい出会いと感動を得ることができた大会となりました。



体罰の未然防止について

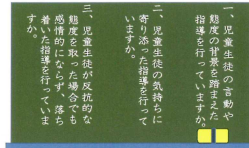
今年度に入り、県下で体罰事案が増加しています。しかもベテラン教師が体罰を行う事案が増えています。共通して言えることは、「教師の指導によって期待する姿と異なる言動をとった児童生徒に対して感情的になったため」というものです。

体罰は学校教育法で禁止されているだけでなく、児童生徒の心身に深刻な悪影響を与え、力による解決を助長するとともに、いじめや暴力行為などの連鎖を生む恐れのある行為です。また、児童生徒、保護者及び地域社会からの教職員・学校に対する信頼も失墜します。体罰は、いかなる場合でも決して許されるものではありません。

授業、業務の前に振り返ろう。

授業時間は、子どもにとって唯一の時間。再び振り返ることのできない時間。教師というものは、最高の自分であるために、研究しつづけていなければならない。

「教えるということ」から 大村はまき 共文社



子どもと向き合う教職員の基本姿勢は
「M: 見つめる」
「O: 思いをめぐらす」
「m: 向き合う」

良質な教育環境づくりへのアドバイス②

全国学力・学習状況調査が公表となりました。調査結果の分析を基に「どの問題が理解できていないのか、授業の改善をどう行うか」等、全職員の振り返りと課題克服のための実践が必要です。また、通過率の低い問題を授業等で活用することも大切です。

編集後記

いよいよ2学期がスタートします。児童・生徒が安心して登校し、やる気に満ちあふれた2学期になるよう、学校でもしっかりと準備を整え、緊張感をもちつつも温かい気持ちで始業式を迎えましょう。